

公民科教材開発論 院生班

テーマ

商店街の教材化 ～イベント活動から日常へ～

235024G	中村彰宏	235120P	関澤卓也
225118P	生田目咲子	215355G	浦野智裕
215119H	高橋秀親		

① リサーチ・クエスチョンの設定

☆本講義のテーマ：「商店街の活性化への取り組みと課題」

「これまでの商店街活性化の取り組みと課題」

○グラウンドデザインが不明瞭

地域の商店街としての発展 or 観光地としての発展
(イベントなどソフト面の拡充) (行政との連携などハード面の拡充)

○活性化への取り組み

ソフト面 → イベントの充実 ハード面 → 株式会社の設立

○取り組みにおける課題

ソフト面 → 人員不足 ハード面 → 柱となる事業が無い 等

「商店街と学校」の視点でのチームミーティング

○学校教育との関連ではソフト面に対するアプローチが必要

○ソフト面のアプローチ → 「子どもの商店街に対する意識の涵養」

○長期的な視点で商店街の活性化を考えた際にどのような方法が？

日常的な商店街への関わり ⇒ 「商店街の教材化」

② 学校との協調で行われていた取組事例(小学校)

大手町小学校

2010年2月レルヒ祭
コロッケパンの販売
肉の米久さん(肉屋)、フラン
ボワさん(パン屋)と提携



2010年2月頃
オリジナルキャラクター
「夢本太」「夢町子」



2010年7月
七夕まつり
本町スマイル
かるた
本町をテーマに
3年生が作成



2008年

2009年

2010年

2011年

2012年

上教大附属小学校

2008年11月
情報収集ハウスの設置
ほっとステーション五番館



2011年1月
酒処しおまねきさんとのコラボでJ級グルメに出店
「雁木の下の上越丼」(優秀賞受賞)「愛はカツ丼」



学校との協調で行われていた取組事例(高校)

高田農業高校

2011年10月花ロード 2012年1月レルヒ祭

「山カフェ」の出店

独自ブランド「高農MOTTAINAI」ブランドとして、炭食パン、炭クッキーなどを販売



2008年

2009年

2010年

2011年

2012年

高田商業高校

2005年～ 毎年夏季休業中(8月)

商業クラブが模擬株式会社Rikkaを設立、毎年夏季休業中にチャレンジショップを開設

- ・菓子や野菜、地場産ものを販売
→一口翁飴、レルヒカレーパンなど
- ・地元教育機関との連携
大町小学校、城北中学校、上越教育大学



③ 今までの取組みに関する商店街へのインタビュー

商店街へのインタビュー ① 1/3

インタビュー先

(2010年大手町小学校への商品提供先)

「肉の米久」

上越市本町4-1-9



「フランボワ」

上越市本町5-1-4



(写真: ホンチョウウェブ! <http://joetsu.honcho.jp/> 2012/1/25 閲覧)

商店街へのインタビュー① 2/3

「商店街活性化イベントについて」

- 商店街の若い人がいろんなアイデアを出してすごく頑張ってくれているので、協力していきたい。
- 祭りは終わると人がすぐにいなくなる。イベントが効果的に商売に結び付いていない感じも否めない。

商店街へのインタビュー① 3/3

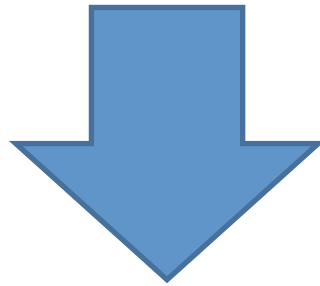
「学校教育と商店街の連携について」

- 子ども達の勉強であればみんな協力はする。
- 学校に出向いていくなどについては、事業規模によって限界はある。店側が受け入れるという体制であればあまり負担にはならないだろう。
- 商店にとっても大事だと思う。協力していくことで商売につながっていくのではないか。

(インタビュー日時 2012/1/22 13:50～15:25)

④ 問題提起

学校で商店街が教材として扱われる際、
「総合的な学習の時間」の内容として扱
われることが多い。またイベントに係わ
る内容が多い。



もっと日常的にほかの教科でも
商店街を活用できないだろうか

⑤ 商店街を様々な教科で教材化する意義 学校側

メリット

・地域との連携

文部科学省 『中学校学習指導要領 平成20年版』 総則 第4 2－(14)
「学校がその目的を達成するため…(中略)…家庭や地域社会との連携を深めること」

・生徒の興味をひきつけるわかりやすい授業の充実

文部科学省 『中学校学習指導要領 平成20年版』 総則 第4 2－(2)
「各教科の指導にあたっては、体験的な学習や…(中略)…生徒の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること」

コスト

・学外に出る手間・労力、時間的ロス

商店街側

メリット

- ・将来を担う若い人材を育てる
- ・商店街に愛着を持ってもらう
- ・日常的に商店街を利用するようになってもらう

コスト

- ・日常的に授業に係わると商売への負担が大きい
- ・教師との綿密な事前打ち合わせが必要

⑥ 現職派遣教員へのインタビュー

現職派遣教員へのインタビュー①

Q 商店街の教材化について（これまでの取り組み）

- ・小説「わら靴の中の神様」に出てくる高田の街を実際に歩く。
(国語科)
- ・豚肉の内臓の部位を使って生物の構造を学ぶ。
(生物科)
- ・バリアフリーされている場所を探しマップ化する地理学習。
(社会科)
- ・商店街をマッピングして自分たちの街を知る発見学習。
(社会科)
- ・商店街とスーパーを比較し、流通について学ぶ。
(社会科)

現職派遣教員へのインタビュー②

Q 商店街の教材化について（考えられる取組み）

- ・味噌屋、酒蔵、パン屋などで、菌の発酵過程を教材化。
(化学科)
- ・雁木や寺町など歴史的建造物の見学をする。
(社会科)
- ・商店街にはどんな街路樹が適しているか。
(生物科)
- ・商店街の魅力を宣伝する広告作り。
(商業科)
- ・商店街のキャッチコピー作り。
(商業科)

インタビューから分かったこと

教員側の思い

- ・教材として商店街を活用する機会があればしたいと思う先生が多い
- ・しかし大変であるためになかなかできない
- ・高校になると受験のための勉強が中心になり、普通科では商店街活用の機会はなくなる。(商業・農業では可能)

教材化できそうな商店街のお店

- ・理科・生物の授業：生き物の体の仕組みを知る。豚の内臓を使った授業
→肉の米久さん
- ・理科・化学・家庭科の授業：発酵についての授業
→杉田味噌さん、フランボワさん(パン)

⑦新しい取り組みの提案

教材化できそうなお店に対する提案①

Q 学校側から、授業のための実物を用意することに協力したことがありますか？

A.過去に教材としての実物を学校側に依頼され用意したことはある。

本業ではない依頼物の用意は、大きな労力が必要。同時に有事の際の責任の所在もあいまいに。

一つの教材を用意するのに大変な労力と多くの人との関わりがある。

もし、連携した授業を日常的に行うとすれば、行政との連携が不可欠ではないか？行政の方で連携・制度化する必要が有るのかもしれない。

教材化できそうなお店に対する提案②

Q 学校と商店、もしくは商店街としての連携活動についてはどう思われますか？

A.地域の活性化という点での協力は行いたい。

商店街が考えていることと商店が考えていることに齟齬があり、学校教育との結び付きの観点がそれぞれ異なっているのではないかな？

学校とのつながりも大切にしていきたいという思いはある。

子どもたちが商店街に行ったときに「あそこに行けば、ああいったものがある」という認識が広がるのではないかな？

⑧ 商店街側の学校と日常的に関わることに 関する反応

Q.学校の商店街への関わりがイベント中心になっているのでは？

→A.年間を通じた取組の発表の場がイベントになっている

Q.学校と商店を結ぶシステムを構築するために行政がより支援を行うべきではないか

→A.行政とのつながりは10年来の課題となっているが難しい

Q.学校教育との連携はどのようなになっているか？

→A.教師の意向が大きい。高田農業が積極的。大学との絡みがほとんどない

(本町商店街コンシェルジュ田鹿さんインタビューより インタビュー日時 2012/1/30 11:00～12:00)

商店街からの反応まとめ

イベントは学校の活動の集大成として
発表の場となる



イベントに
なるのは仕方
がない

イベントを
増やしたい

(インタビュー日時 2012/1/22 13:50~15:25)

⑨ 結論および今後の課題

~~イベントから日常へ~~

- …障害として
- ・行政のサポート制度面の整備
- ・事故への責任問題



イベントの日常化

→ そしてそこにどのように
日常的に学校が係わっていくか

課題として・・・

① 各学校の協力体制の強化

- ・学校側は子どもが学校外に出るのを嫌がる
- ・教員は多忙のため、外部連携をやりたがらない

→ **しかし教育の主導はあくまで学校**
商店街は**地域全体で活性化**するという意識を持ち、
地域の一員である学校もそれに協力すべき

② 上越教育大学の積極的な参入

小学校から段階を踏むほど商店街との関係が希薄化

- **大学側ももっと積極的に商店街に係わるべき**
- ・本町商店街活性化サークルの設立
 - ・地元の教育機関を巻き込む中心的存在としての大学

ご清聴ありがとうございました